

腎 臓 内 科

概 要

部 長：吉 本 明 弘
ス タ ッ プ：4 名
専 攻 医：4 名

【症例数・検査・治療・成績】

外来患者数は週に約 200 人、入院患者数は 1 日平均 11 人。CAPD 新規導入は年間約 10 人、外来 CAPD 患者数は 25 人。血液透析ベッド数は 12 床で年間 92 人の新規導入がある。

外来維持血液透析は実施していないので、安定すれば近隣の透析病院を紹介している。

悪性腫瘍や心血管疾患等の手術や心カテ、血管造影等の検査を有する透析症例が多い。また、糖尿病性腎症やネフローゼ症候群、急性腎障害の症例も多く、腎生検は適応を限定して、エコー下に年間 106 件実施している。腎移植は 1991 年に生体腎移植を開始し、近年腎移植希望者が増えている。

病診連携の一環として腎不全教育入院も積極的に受け入れている。

当科の特徴

当科では「腎から全身を診る」をモットーに、内科的腎・尿路疾患全般および関連疾患の診療を行っている。対象疾患は糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、全身疾患に伴う腎疾患、妊娠腎、腎性高血圧、腎尿路感染症等多岐にわたる。その中でも急性腎障害や慢性腎不全の急性増悪例などの急性期疾患が多い。

透析血液浄化センターでは血液透析のみならず、症例に応じて血漿交換、血液吸着、血液濾過透析、CAPD 等きめ細かい治療をしている。難治性ネフローゼ症候群に対しては、積極的な治療を行い、早期に社会復帰できるように努めている。腎移植希望者に対しては、泌尿器科と協働で生体腎移植を行っている。さらに、MRI、CT、カラードップラーエコー等の画像検査を駆使した診断・治療や内シャント手術など腎不全外科領域の治療も実施している。日本腎臓学会認定研修施設、日本透析医学会認定研修施設である。

一 般 目 標

腎臓内科医として幅広い知識と技術を習得し、患者にとって最善の医療を提供できるように、腎臓だけでなく、全身を診ることができる能力を身につける。

行動目標

腎臓内科領域の基本技術を習得する。正確な診断を下し、治療計画を立てることができる。腎生検組織をみて病理診断ができるようになる。急性血液浄化療法が1人でもできるようになる。

- 1年目：**
1. 腎臓疾患の初期対応、基本技術を習得する。
 2. 幅広い医学知識に基づいた診療をし、鑑別すべき疾患を挙げ、最終診断を下すことができるようになる。そして効率的な検査を行い、治療計画を立てることができるようになる。
 3. コメディカル・看護師をはじめ、同僚他科の医師との意思疎通と協力関係を築き、患者家族との信頼関係に立った医療ができるようになる。
 4. 当直業務や透析・救急担当業務に就く。
- 2年目：**
1. 腎生検組織をみて病理診断ができるようになる。
 2. 急性血液浄化療法が一人でできるようになる。
 3. 後輩医師を指導できるようになる。
 4. 学会発表、論文作成を行う。
- 3年目：**
1. 腎臓内科領域の中でも専門領域を持ち、独り立ちする。
 2. 日本腎臓学会認定医、日本透析医学会認定医取得の準備をする。

週間スケジュール

	朝	午後
月	腎臓内科カンファレンス	
火	CAPD カンファレンス	腎生検、透析カンファレンス
水	腎臓内科、泌尿器科合同カンファレンス（第2水曜日）	
木		腎臓内科カンファレンス、部長回診
金		腎生検カンファレンス
(月曜から土曜まで血液透析実施)		

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL：http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

吉本 明 弘：ayoshi@kcho.jp